

一般質問

本定例会の6月17日から4日間にわたり、17人の議員が市政について52項目の一般質問を行いました。その要旨は次のとおりです。紙面の都合上、1人1項目のみ掲載しています。なお、その他の質問項目については、市議会ウェブサイトに掲載しておりますのでご覧ください。

児童・生徒に親しまれる学校給食について



池田 議員

問 学校給食アンケートの「あまりおいしくない」、「おいしくない」との回答に市としてどのような取り組みを行ってきたか。

答 味つけや彩りを工夫し、丁寧な給食づくりに取り組んでいる。また、イベント献立や児童・生徒の意見を反映した献立など、食への関心や、学校給食に親しみを育てるよう、創意工夫を重ねている。食材本来の風味やおいしさを感じられるよう配慮し、豊かな味覚を育む機会となるよう取り組んでいる。

問 安全・安心な学校給食の提供のため、衛生管理面などで行っている具体的な取り組みは。

答 勤務する全職員に対する細菌検査の実施、適切な調理場や器具類の洗浄と消毒、野菜類の3回洗浄や下処理から調理後の調理段階ごとの目視確認などによる異物混入防止対策などを講じ、安全で安心な学校給食の提供に努めている。

問 牛乳が提供されているが、メニューによっては別の飲物のほうが相性のいいケースがあると思うが、見解は。牛乳が飲めない、または苦手な児童・生徒への対応は。

答 必要な栄養素を適切に摂取できるよう献立を作成しており、学校給食法および同法施行規則に規定する主食、ミルク、おかずで構成される完全給食の一部として牛乳を提供している。食物アレルギーなどで牛乳が飲めない児童・生徒には、申請に基づき個別対応を行っている。



地産食材を使った給食の献立
(学校給食共同調理場
公式Instagramより)

※茶色く太字になっている用語については7面で詳しく説明しています。

市民の家計負担増となる下水道料金の値上げの中止について



山岸 議員

問 下水道使用料金見直しの検討状況については。

答 流域下水道維持管理負担金の大幅な値上げについて、値上げされた負担金の令和8年度の増額分を市が肩代わりし、市民負担の軽減を図っている。下水道を確実に機能させるためには、適切な維持管理が不可欠であり、健全な経営を維持していくため、適切な使用料を算定し、速やかに改定する必要がある。持続可能な下水道経営と住民負担の抑制を両立させる観点から、改定料金の試算を実施している。

問 料金改定の実施時期、決定までのスケジュール、市民への周知期間は。また、市民への意見聴取、パブリックコメントなどの実施について、認識は。

答 下水道使用料の改定については、令和9年度から予定しているが、具体的な改定方針については、現在検討中である。

問 今年度、都の流域下水道維持管理負担金が1億3645万円増になるとのことだが、この金額を現在市内で下水道を利用する世帯数で割った場合、1世帯当たりいくらになるか。

答 下水道利用には、企業や店舗なども含まれるため、契約件数で答えると、4万3757件で、1件当たり約3118円となる。下水道使用料の改定案の検討に当たり、令和8年度以降は事業経営が非常に厳しくなることが予想され、負担金増額分に加え、改定に係る経費なども考慮しながら、試算を行っている。

稲城市立病院のあり方について



川村 議員

問 地域医療を取り巻く環境は、物価高騰や医師・看護師などの人員不足、医療ニーズの多様化などにより一段と厳しさを増しており、市立病院では、病床数の290床から221床への削減が行われた。経営の効率化・スリム化は財政健全化のため不可欠であるとして理解する一方、市民に対する医療提供体制の縮小や、公立病院としての役割の低下に繋がってはならない。今後の具体的な経営施策の展開は。

答 市内などからの救急受入強化や開業医との連携に注力し、患者数・収益の回復を目指す。

問 一部病棟を地域包括ケア病棟への転換準備を進めているとの事だが、地域包括ケア病棟という言葉は市民にはまだ馴染み

が薄いため、単に病棟を転換したという事務的な告知に留まらず、例えば、自宅復帰に向けてリハビリできる病棟ができたなど、「どう使えるか」を市民目線で発信すべきではないか。

答 機能転換の周知については分かりやすく丁寧な情報発信に努める。

問 外来の待ち時間を解消し、市民の利便性向上を図るため、スマートフォンで混雑状況などが分かる簡易ツールの導入などを進めることについて考えは。

答 ウェブ予約などはシステム連携などの課題から現時点では困難だが、患者の利便性向上に寄与できるものと認識しており、他公立病院の先進事例を研究する。

市内における熱中症対策及び防災機能を備えた公園づくりについて



土居 議員

問 近年、地震や豪雨災害による断水時の飲料水確保や猛暑の影響による熱中症対策が課題となっている。平時は熱中症対策や衛生環境の向上に寄与し、災害時には避難場所として活用するため、水飲み場や水道設備が設置されていない公園において、今後の整備を進める考えは。

答 公園の規模や利用状況、地域の避難場所への指定の有無など、それぞれの公園が持つ役割や特性を踏まえ、必要性の高い公園から順次、設置の可能性を検討していく。

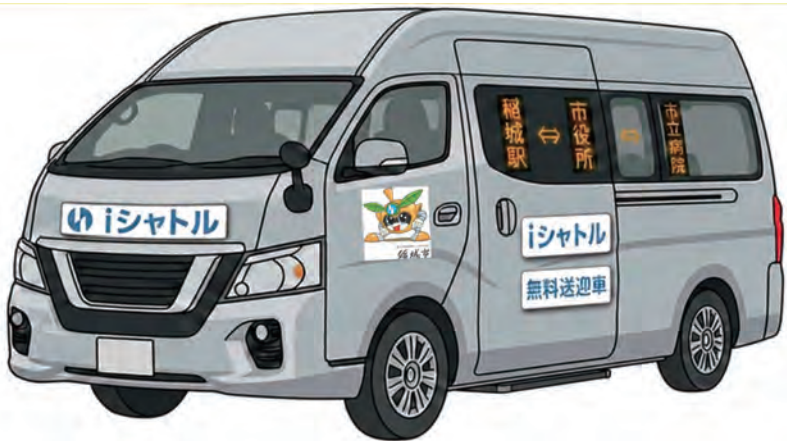
問 利用者数や避難場所指定の有無など、具体的にどのような基準で優先順位を判断するのか。

答 主に遊具や砂場があるなど利用者の滞在時間が長くなる公

園や、子供や高齢者の利用頻度が高い公園、災害時の指定緊急避難場所に指定されている公園など、公園の持つ役割や特性を踏まえた上で、現場状況による水道引込工事の施工難易度なども考慮し、総合的に勘案した上で優先順位を判断する。

問 今後整備される予定である(仮称)矢野口公園についても、通常の給水設備のほか、防災井戸などの整備による熱中症対策や防災機能を考慮した設備の整備を検討する考えはあるか。

答 現在整備中の吉方公園と同様、地元住民などで構成する協議会を設立し、公園の在り方や整備内容について検討を行う中で熱中症対策や防災機能などを含め、検討していく。



7月7日から運行開始の市立病院無料送迎ワゴン車のイメージ図